

② 如来谷の数珠岩

上河内から赤谷（足羽郡美山町赤谷）へは、赤谷峠っていう山道がある。赤谷はすっぽり山にかこまれているから、村の人は、この道をとおって河和田に物を売りにきたり、買いもんをして帰ってたんや。その道を上河内からちよっとのぼった如来谷に大岩があったの。

今から七百年も昔のことやそつな。赤谷の人が河和田に来て帰り道、この大岩でいっぶくしていたお坊さんに出会った。目があつとな、

「長いことお世話になりました。」

つて頭をさげて、手にもつてたお数珠を岩の上において山を下りていった。

「見たことねえお坊さんや。なんであんなこと言うたんやろ。」

首をひねりながら赤谷の家に帰りつき、お仏だんの扉をあけたら、中の仏さまが消えてしもてた。「いりやどつしたこつちや。ひよつとして、あのお坊さんはうちの……」。

あわててあの大岩まですつとんできたけど、お坊さんの残したお数珠が岩の上においてあるだけ。それを手にとると、岩の上にくつきりお数珠のあとがついてい

たんやと。

「いつも仏さまをそそつにしてたんで、あいそつかして出て行きなはったんや。何ともつたないこつちや。なんまんたぶ……」。

と、仏さまを大事にするようになった。ほれから、あの大岩は「じゅず岩」とよばれるようになつたんやと。

赤谷は平家の落人伝説のある村で、平家にゆかりのある人たちが赤谷へ落ちていく時に、上河内では追手から守る見張り番をしたそつな。昔は赤谷から河和田方面に嫁いできた人も多かつたが、昭和の大火事もあつて、今ではめつきりさみしなつてもた。

